

土木鋼構造物の点検・診断・対策技術(2009年度改訂版)の正誤表

平成22年1月27日版

章	ページ	行, 図表	誤	正
3	87	右, 最終行	この強度の高力ボルトはそれ以降使用されなくなった.	この強度の高力ボルトは <u>1967年にJISから削除され, 使用されなくなった. また, 1971~1977年頃に使用されたF11Tについても, 遅れ破壊が問題となり, 1980年(昭和55年)の道路橋示方書で使用禁止となった. このような歴史的背景から, 高強度の高力ボルトについては, 耐遅れ破壊性能が特に重要である.</u>
5	135	写真5.1-1	写真が違う	<u>07テキスト写真5.2-1</u>
5	137	図5.1-3	図タイトル「支点周辺の腐食状況」	「 <u>磁化方法の種類</u> 」
5	147	右, 5,6行目	キズ	<u>きず</u>
5	147	右, 34行目	きずの寸法がきずの位置での	<u>垂直探傷においては</u> きずの寸法がきずの位置での
5	174	式5.2-6	$a = \left[\sum a_f^2 10^{f/10} \right]^{1/2}$	<u>Cfのfは下付き</u>
5	174	右, 27~32行目	af, cf	<u>fは下付き</u>
5	175	左, 16行目	影響を受けやすい	影響を受け <u>にくい</u>
6	194	表6.2-4	①評価指揮 ② $R = \frac{b}{t} \sqrt{\frac{\sigma_y}{E}} \sqrt{\frac{12(1-\nu^2)}{\pi 2k}}$	①評価指 <u>標</u> ② $R = \frac{b}{t} \sqrt{\frac{\sigma_y}{E}} \sqrt{\frac{12(1-\nu^2)}{\pi \overset{2}{k}}}$
9	292	図9.3-2	$SR = \sigma / \sigma_m \times 100$	$SR = \underline{\sigma_m} / \underline{\sigma} \times 100$